

Economic Indicators

発表日: 2020年11月2日(月)

一般会計税収(2020年9月末)

～2020年度税収は当初予算見込みから大きく下振れへ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 星野 卓也 (TEL: 03-5221-4547)

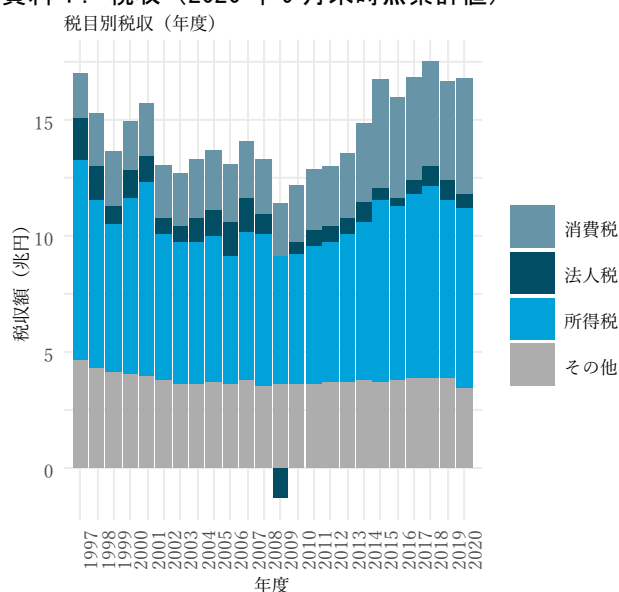
今のところ前年比横ばいだが・・・

財務省の公表した2020年4月から9月末までの一般会計税収(累計値)は16.8兆円と、前年同時期の16.7兆円を+0.3%上回った。税目別にみると、所得税が7.8兆円(前年比+0.7%)、法人税は0.7兆円(同▲19.9%)、消費税は4.9兆円(同+14.8%)となった。税収全体では前年から横ばい程度となっているが、2019年10月の消費税率引き上げの影響が効いているほか、コロナ禍で大幅に減少したとみられる法人税がまだほとんど計上されていない時期である点によるところが大きい。所得税も9月単月で減少しており、雇用環境悪化などを映じて今後減少基調が明らかになる可能性が高い。

政府当初予算における2020年度の税収見込み値は63.5兆円となっている。これは新型コロナウイルスの問題が表面化する以前に見積もられた数値であり、数兆円単位での下方修正が不可避だ。今後の経済情勢次第ではあるが、筆者は2020年度の税収が決算時点で50兆円前半半まで落ち込む可能性もあるとみている。

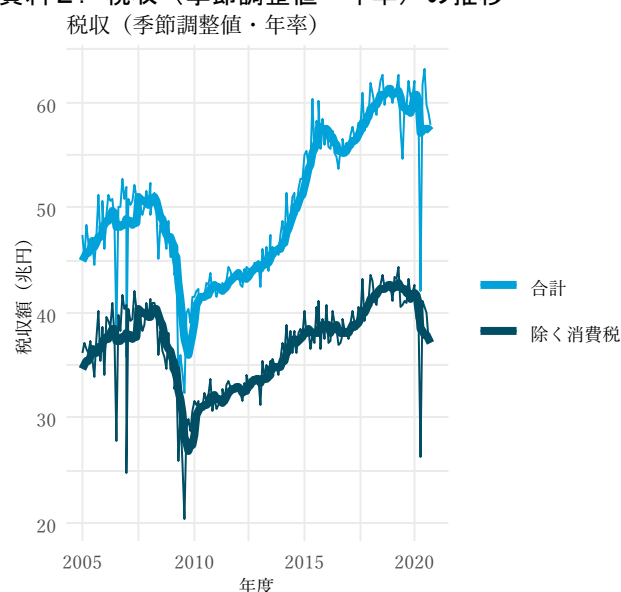
毎年政府は年末の補正予算で税収見積もりの修正を行う。例年のスケジュール通りであれば、政府が今後編成すると見込まれる2020年度の第3次補正予算において、税収の下方修正分の補填が行われることとなる。財源は新規国債発行となろう。足元でも、第3次補正予算について規模に関する発言が出ているが、その規模がこの税収補填分を含むベースなのか、追加事業分に絞った税収補填分を含まないベースなのかは定かではない。今後補正予算の規模に関する発言や報道が相次ぐとみられるが、その数字がどちらの基準に沿ったものなのかに気を付けるべきだろう。

資料1. 税収(2020年9月末時点累計値)



(資料1出所) 財務省「租税及び印紙収入、収入額調」

資料2. 税収(季節調整値・年率)の推移



(資料2出所) 同左。季節調整値は筆者。太線は6ヶ月移動平均。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。